

(コラム)

日立ハイテクノロジーズ主催の 社会貢献活動に参加して



ひがして りょうこ
東出 良子

このたび、私は「日立ハイテクやさとの森」の下草刈りボランティアに、社員の家族として参加させていただきました。夫が日立ハイテクノロジーズのグループ会社に勤務するご縁でお誘いを受けたわけですが、人前に出るのが苦手な私でも参加する決心ができたのも、広く有志を募り、家族でも気軽に安心して参加できるような、きめ細かな配慮をいただいていたからです。

日立ハイテクグループでは環境社会貢献活動の一環として、2005年4月より林野庁の「法人の森林分収造林制度」を活用し、茨城県石岡市（旧八郷町）にある筑波山系の国有林の一角2.3ヘクタールを借り受け、社員有志とその家族ボランティアによる植樹、下草刈り、枝打ち、間伐などを行って、60年間（2065年まで）にわたり、この森を育て、地球環境の保護、地球温暖化の防止に貢献する、とお聞きしました。とても夢のあるお話です。

当日は、茨城森林管理署と芳賀地区森林組合の方々のご協力を得て、社員の皆さんと一緒に森林浴を楽しみながら現地までハイキング。途中、森の自然についてのレクチャーやクイズがあり、環境学習も兼ねています。森林がCO₂を吸収することはよく知られるところですが、クイズではさらに踏み込んで、「日本は京都議定書で温室効果ガスを約6%削減すると国際的に約束したが、このうち約何%を森林で吸収することになっているのでしょうか」等々の問題がありました。

森を育成する責務を胸に、肩の高さほども伸びた雑草を、しかし苗木を切ってしまうまいよう注意深く丁寧に刈り取っていきますと、それまで雑草で覆われていたヒノキ、ナラ、ヤマザクラ、イロハモミジなど5,600本もの苗木が、東京ドームのグラウンドとほぼ同じ広さ一面に現れました。感動とともに、お手入れの重要性を痛感した瞬間です。

もともと私は自然が好きで、時折ですが、夫と近郊の里山へハイキングに出掛けます。豊かな四季の変化と動植物の営み、山里の風景を眺めながらそれらの空間に身を投じると、人間も自然の一部であることを思い出させてくれます。このすばらしい原風景がいつまでもあってほしいと思います。しかしその一方で、広く地球環境の保全に思いをはせた時、積極的な何らかの「取り組み」が必要ではないかと感じていました。そんな矢先でしたので、このような社会的影響力の大きい有力企業や団体がリード・発信する社会貢献活動に参加することができて本当にありがたいと思いました。

今後、さらにこうした意義深い活動の輪が広がることを願いつつ、ここで学んだ皆が力を合わせることで、継続することの大切さを忘れずに、微力ながらもこの森を育て、見守りたいと思います。そして、活動ごとに計画、準備、参加者のフォローをしていただき、私たちの安全な活動を支えてくれているスタッフの皆さまに、この機会をお借りして深く感謝申し上げます。